

事項	りんご「ふじ」におけるつる割れの多発要因と発生軽減対策（追加） ～つる割れ（こうあ部裂開）発生の多少は降水量から予測できる～		
ねらい	平成16年度指導参考事項において、りんご「ふじ」のこうあ部裂開は、①8月に雨量が多い、②果実肥大が良好である、③樹勢が強い、の3条件が揃うことが多発要因につながるとした。今回、こうあ部裂開と降水量の関係について、満開後日数を基準とした解析を行った結果、こうあ部裂開に関連性の高い期間がより具体的に明らかとなったので、参考に供する。		
指導参考内容	1 りんご「ふじ」のこうあ部裂開と降水量の関連性が最も高い期間は満開後81日～130日（平年：8月3日～9月21日）であり、この期間の総降水量が多いほど、収穫時のこうあ部裂開の発生が多い。		
期待される効果	りんご「ふじ」のこうあ部裂開の多発発生が懸念される場合は、収穫を必要以上に遅らせないなど、良品生産上の注意を喚起することが出来る。		
利用上の注意事項	こうあ部裂開は排水不良園や樹勢の強い樹で発生が多い傾向があるので、発生の多少は降水量だけでなく、これらの要因も考慮して判断する。		
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センターりんご試験場 栽培部（葛西 智、秋田奈津子、長内敬明、工藤 智、町田郁夫、斎藤貞昭）	対象地域	県下全域
発表文献等	平成16年度 指導奨励事項・指導参考資料等 農業技術体系果樹編追録第21号（農文協発行） 平成11～14年度 青森県りんご試験場研究成績概要集 平成15～18年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場試験研究成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 各期間の総降水量と収穫時（満開後175日）のこうあ部裂開発生率の相関係数

（平成11～14年 青森りんご試、平成15～18年 青森農林総研りんご試）

満開後 日 数	～70	～80	～90	～100	～110	～120	～130	～140	～150	～160	～170
61～	0.234	0.422	0.445	0.920**	0.866**	0.824*	0.681	0.693	0.593	0.559	0.517
71～		0.409	0.501	0.651	0.829*	0.888**	0.884**	0.803*	0.472	0.579	0.589
81～			0.164	0.349	0.812*	0.886**	0.949**	0.770*	0.370	0.517	0.582
91～				0.260	0.699	0.829*	0.820*	0.593	0.250	0.355	0.365
101～					0.753	0.829*	0.554	0.467	0.120	0.247	0.196

（注）回帰分析により、** は1%、* は5%水準で有意性があることを示す。

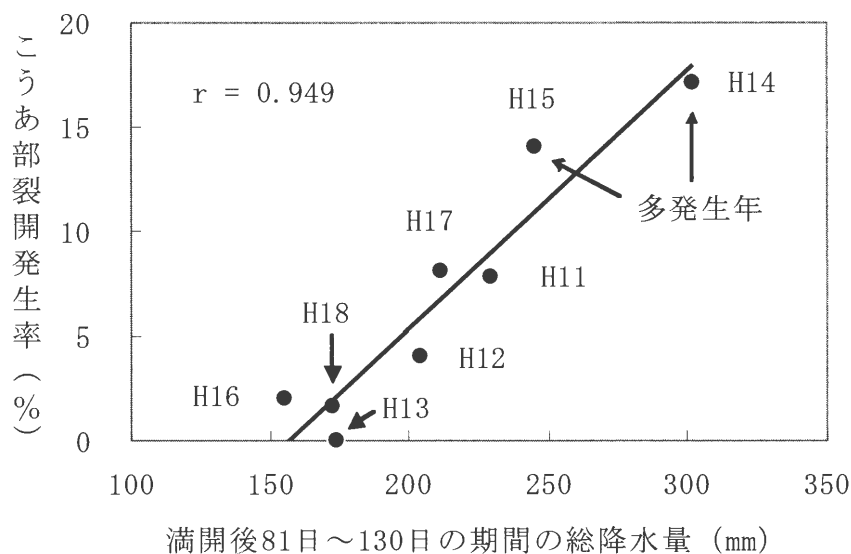


図 1 満開後81日～130日の期間の総降水量とこうあ部裂開発生率（満開後175日）の関係

（平成11～14年 青森りんご試、平成15～18年 青森農林総研りんご試）